

エネルギー資源新聞

中東情勢の危機

イスラエルとイランの状況

原油価格への影響

イスラエルとイランがまた戦闘状況に陥るのではないかと、予見から、原油価格に変動が見られます。今後、両国の関係と行動によって原油の取引価格は大きく値動きすることは間違いないでしょう。日本政府は最悪のシナリオを想定して動くことが求められるのは、可能性の段階ではありますが、Oとは言いえないでしょう。中東からの原油供給が停止するというのが高く予測されます。すでに軍事衝突を1度はしていることから、

原子力発電は安全か

今の日本国内の原子力発電所は、不安定な状況を抱えています。使用済み核燃料の問題だけでなく、原発を運用すれば必ず生じる最終の核のごみの処分地すら決まっていない、この状況では、いずれ核燃料サイクル

は破綻する運命にあることは間違いない。問題は、安全な処分地を定めること、安全な処分地を定めることも極めて重要になつてくることは間違いない。核のごみの問題は、日本だけのことはありません。多くの国で最終

は破綻する運命にあることは間違いない。問題は、安全な処分地を定めること、安全な処分地を定めることも極めて重要になつてくることは間違いない。核のごみの問題は、日本だけのことはありません。多くの国で最終

衝突を避けるには

中東から原油を大量に輸入しているのは日本だけではなく、隣国の中国にとっても中東からの原油供給は生命線であることから本格的な軍事衝突は望んでいないと思われまふ。もしイスラエルとイランが2度目の戦闘状況になった場合はホルムズ海峡の封鎖という事も予見されます。そうなれば中東からの原油供給は事実上停止になることから仲裁案を多くの国が出すと思われるが、それに従うかどうかはわかりません。

中東情勢

現在の中東地域の情勢は、極めて危険な状況にあることは間違いない。今後もイスラエルとイランとの戦闘が再び発生する可能性が高い。イランはホルムズ海峡を封鎖することで、多くの国への原油供給を一時的に止めることを狙っているかもしれない。過去の戦争の時にはタンカーへの攻撃が何度もあったことから、現実と同じよ

新たな電力政策

石油や石炭やウランなどの化石燃料に頼る発電ではなく、環境に比較的影響を与えない太陽光や地熱発電や水力発電の効率的な運用を見つけて出すことが、今最も求められているのかもしれない。再生可能エネルギーであれば、他国に頼ることなく電源確保ができるという大きなメリットがあります。しかし、それに到達するには厳しい規制があるのもまた事実です。

求められる政策

石油に依存するエネルギー政策から離れることが、今

環境政策と資源開発

日本は自然環境を守るために多くの法律で規制を行っている。それにより地熱発

エネルギー戦略

日本のエネルギー政策は中東に依存することが多いです。分散させることで、安全なエネルギー戦略を練ることができると考えられます。特定地域に供給源を頼りすぎると、地政学上危険なことになる。エネルギー資源の安定供給を考慮するならば、分散型に切り替えることや、エネルギー資源についても特定のものの依存度を下げて、これらも分散型にすることで、安定供給が可能となり、問題が特定地域に生じても影響を最小限に済ませることができると考えられます。

